

令和6年度 第2回 鹿児島県立図書館協議会の開催結果

1 開催日時

令和7年3月7日（金） 午前10時から午前11時30分まで

2 開催場所

鹿児島県立図書館 第1研修室（オンラインにて開催）

3 出席委員

原 憲一 委員，里光 和恵 委員，田淵 千春 委員，山本 智子 委員，岡田 祐介 委員

下豊留 佳奈 委員，宮内 基希 委員，廣石 悠人 委員

4 公開・非公開の別

公開

5 傍聴者

なし

6 協議

- (1) 第2期鹿児島県立図書館基本的運営方針（案）について
- (2) 令和7年度主要事業の運営計画（案）について

7 審議結果等の概要

(1) 第2期鹿児島県立図書館基本的運営方針（案）について

ア 利用者数及び貸出冊数の減少について

全国の都道府県立図書館の入館者数が、コロナ収束後、少しずつ回復しているのに対して、県立図書館では、令和2年度に一気に利用者が減少後、横ばい状態で推移している。

貸出冊数についても、貸出冊数の増冊や貸出期間の延長により、令和3年度に増加して以降は、減少が続いている。入館者数や貸出冊数の減少について、どのような問題意識を持っているか。

→ 10年前の入館者数と比較した場合、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、全国的に入館者数は減少している。

県立図書館においては、令和4年に天文館図書館が開館し、利用者が目的に応じて利用する図書館を選択しているという状況にあり、入館者数の復調が伸び悩んでいるのではないかと捉えている。

今後、どのような取組をするのかについては、検討しているところである。

児童文化室の貸出冊数の減少については、やはり少子化も要因のひとつと考えている。全県的な読書活動の推進を踏まえながら、事業に取り組んでまいりたい。

奄美市には市立図書館はないが、近隣の市民交流センター内に図書室があり、県立図書館同様に、利用者が目的に応じて、利用する図書館を選択しているのではないかと捉えている。「図書館は、本を読むだけの場ではない」という、図書館の魅力発信も考える必要がある。

令和6年度は、奄美図書館開館15周年の節目でもあることから、様々なイベントや工夫ある広報活動に取り組んできたところであり、令和7年度も引き続き、来館いただけるようなイベント実施等を工夫してまいりたい。

イ 読書活動推進について

自身が子供の頃には、椋鳩十氏が提唱された「親子20分間読書」や「朝読み・夕読み」といった言葉を学校で耳にしたが、自分の子供が学校でそのような言葉を聞いたということがない。以前に比べると、鹿児島は特に、子供の読書習慣が減ってきている印象がある。読書活動推進人材スキルアップ研修会について、研修内容及び参加対象者、事業実施期間内における開催地域についての詳細が決定しているか。また、奄美地区でも開催予定があるか。

→ 研修内容については、県の読書活動推進事業の概要説明、読書活動の専門家による講演、公共図書館や公民館、読書グループにおける取組事例の発表、ワークショップを予定している。対象は、公共図書館の関係職員をはじめ、行政関係者、幼稚園教諭、保育士、読書ボランティア、読書活動に関心がある県民等を想定している。

開催地区については、令和8年度に北薩・大隅地区、令和9年度に鹿児島・熊毛地区を計画している。大島地区においては、独自に各市町村が毎年度持ち回りで「読書指導者等研修会」を実施し、読書活動を推進する人材の育成を図っているところである。

ウ 広報活動について

黎明館を含む様々な機関に資料を貸し出していると思うが、何を貸し出しているかホームページや SNS でお知らせをしているか。

→ 情報発信については、可能な限り、ホームページや Instagram, Facebook 等の SNS に掲載しているつもりではあるが、まだ不足する部分があるため、今後も力を入れて取り組んでいきたい。

県立図書館の Instagram の閲覧数について、少ない印象がある。

館内で Instagram や Facebook の宣伝がされていない印象を受けた。

例えば、利用者へのリーフレット配付や館内へのポスター掲示などのアピールをすることで、閲覧者数の増加に繋がるのではないか。

→ いくら発信しても閲覧されなければ効果がないため、フォロワー数の増加に繋がるような取組を検討する。

エ 防災対策について

図書館資料の防災対策について、具体的にどのような対策を講じるのか。

→ 防災対策については、今年度、国立国会図書館で開催された会議において話題になっており、当館でも取り組むべき課題であると整理した。

当館書庫については、火事の際に炭酸ガスが放出されるが、開架資料をどのように避難させるのか、また、水没した場合、どのように復旧させるかなど、水没や火災から図書資料を安全に保存するテクニックについて、系統立てて計画的に対策を講じる必要がある。

(2) 令和7年度主要事業の運営計画（案）について

ア 城山ホテル鹿児島との連携について

「文化ゾーン内の宿泊事業所に県立図書館が所蔵する資料を貸し出すことで、ゾーン内の事業所の付加価値を高める」とあるが、具体的にはどのような取組を実施するのか。

また、どのような人を対象としているのか。

→ 城山ホテル鹿児島のラウンジに図書コーナーが設置されることに伴い、今年4月から半年又は1年の期間内、鹿児島に関する資料を中心に100冊程度を貸し出す計画であり、現在、選書を行っているところである。現時点では、日本人かつ大人向けの資料を中心に選書している。

イ 高校生を対象としたイベントについて

「海音寺潮五郎文芸ゼミナール」や「ビジネスプラン作成講座」等の高校生を対象としたイベントは、個人が応募し受講するのか。また、後者については、継続して参加希望があるか。

→ 海音寺潮五郎文芸ゼミナール、ビジネスプラン作成講座ともに、各学校に案内を送付し、希望者を募集している。

ビジネスプラン作成講座は、日本政策金融公庫と連携し、令和4年度からスタートした事業であり、次年度で4回目の実施である。参加者の中には、全国コンテストでも上位の成績実績があり、日本政策金融公庫からも事業継続の希望があることから、次年度も継続実施する。

ウ 夏休みにおける親子の図書館利用について

親子で夏休みの課題に取り組めるようなイベントや企画があるか。

博物館では、自由研究のための取組を実施しているため、県立図書館でも読書感想文など課題に取り組めるイベントの実施があるといい。

→ 県立図書館では、夏休みの自由研究のための企画展示を6月頃から児童文化室で実施し、子供たちが展示を見ながら図書資料を借りて、自由研究に取り組めるような形で支援を行っている。

エ 障害者サービスについて

奄美図書館における「障害者サービスに視点を置いた資料の収集」とは、具体的にどのような取組か。

→ 例えば、大活字本やLLブック、点字の絵本、点訳ボランティア向けの図書資料の収集・充実の取組である。

オ 公文書について

永久保存の県公文書の閲覧や写しの利用申請が開始されたが、県立図書館の令和7年度の事業において、公文書のリスト化や目録化の予定があるのか。また、県立図書館と公文書館は、どのように関わっていくのか。

→ 現在のところ、特段の予定はない。

県からの依頼に応じて対応し、進展があれば協議会に情報提供する。